

第1学年「みがく」学習活動案

授業者 岩坂 尚史

2月22日(木) 1階C室 9:00~9:40

1 活動名 ふゆプロジェクト

2 活動について

本校の低学年教育で特に大切にしている活動は、サークル対話と計画表を用いた個別の学習の時間である。サークル対話は、子どもたちが生活の中で感じたことや考えたこと、興味をもったことを語り合い、聴き合う時間で、このサークル対話から共感や驚きや問いが生まれ、新たな語彙の獲得や学びが生まれることがある。

サークル対話や個別の学習での興味や問いから出発して、子どもたち自身が取り組みたいことを企画・提案し、仲間を組織して行うプロジェクト的な学びを進めることができるようにしている。そこでは、どのような活動をすればよいかなど集まった者同士で話がまとまらないこともある。子どもたちが自ら協働的な活動に取り組めるよう、そして、悩みながらも子どもたちの手で活動を作っていくように、一年間という長いスパンの中で、多くの時間を確保している。

このような活動を行うにあたって、仲の良いメンバーで仲間を組織して何か活動をしていくといった形から、目的や課題に合わせて、仲間が集まるようになってきた。二学期は、秋に関わりのある活動を行う「あきプロジェクト」を教員から提案したのだが、子どもたちは、落ち葉を並べてグラデーションを楽しんだり、木々や葉も加え画用紙に貼って作品を作ったりするなど、目的に応じて子どもたちが集い、活動する姿が見られた。異なる他者と意見をすりあわせて活動を作っていく楽しさが少しずつ子どもたちに広がり、今までとは違ったメンバーで取り組む姿も見られた。

しかし、自分たちでアイデアを出してプロジェクトの学習に取り組むことの難しさを感じている子や、まだまだ人間関係が確立していない中で、どんな提案をすればよいのかと悩み周りの子と協働的な活動を行うことができるか不安な様子の子も見受けられる。また、秋プロジェクトでは自然のものを生かしたり、遊んだりする姿が見られ、継続して身近な自然と関わってほしいということから、本活動では、「ふゆプロジェクト」を子どもたちに提案する。どんなプロジェクトができるか意見を出し合いながら、どのプロジェクトに参加して活動するのかを話し合い、グループで何かを作り上げていくという活動を取り入れる。

この活動を進めるにあたり、落ち葉や紅葉など秋を感じやすい「あきプロジェクト」とは違い、冬の自然観察は特徴がつかみづらい部分もある。教員も含め、子どもたちも悩みながらの活動になると想定される。それでも、四苦八苦・試行錯誤する時間は、これから創造的な活動をしていくにあたりとても重要な時間だと考えている。教員自身もともに悩み、子どもたちの活動をサポートしていきたい。

3 学習活動計画(8時間目/全9時間)

- どんなプロジェクトをやってみたいか出し合う。…2時間
- 自分たちが選んだプロジェクトに取り組む。…5時間
- 自分たちのプロジェクトを紹介する。…2時間(本時1/2時間)

4 本時の活動について

(1) 本時のねらい

他者の声を聴きながら自分達のプロジェクトがどうすればよくなるかを考えることができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 それぞれのプロジェクトの紹介をする。	○各ファミリーの主張を受け止める。
2 その紹介に対して質問を出し合い、聴き合う。	○自分たちのプロジェクトを思い浮かべながら質問ができるようにする。
3 そのプロジェクトが、どうすればよりよくなるか意見を出し合う。	